

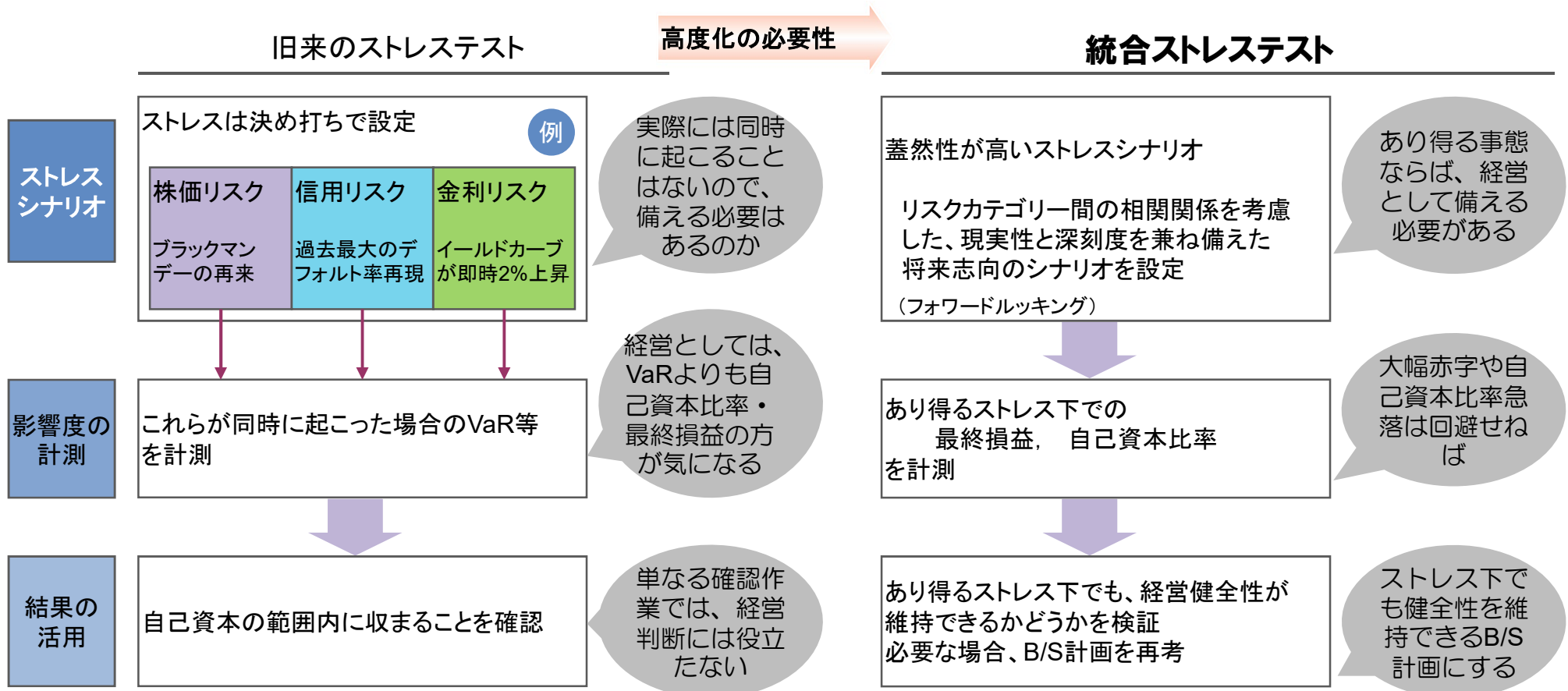
Discussion Purpose Only

統合ストレステスト手法の 高度化支援コンサルティング

金融戦略室
【ご案内資料】

1. 統合ストレステスト手法高度化の必要性

- 旧来のストレステストは、バーゼル委員会の「ストレス・テスト諸原則」を満たしておらず、ストレスを決め打ちで置いて、ストレス時のVaR等を計測し、自己資本の範囲内に収まっていることを確認するものが主流でした。
- 統合ストレステストは、蓋然性が高いストレスシナリオを設定して、損益影響・自己資本比率影響を計測するものです。



2. 統合ストレステスト手法の特徴

- 統合ストレステストは、「自己資本充実度の検証」を目的として、蓋然性の高いストレスシナリオにより、リスク横断的な影響度評価を行うという特徴があります。
- リスクアペタイト・フレームワークの重要要素である統合ストレステストを有効に運用するためには、財務会計ベースでのリスク横断的な影響度計測手法の高度化と、適切なストレスシナリオ策定が重要になります。

旧来のストレステスト

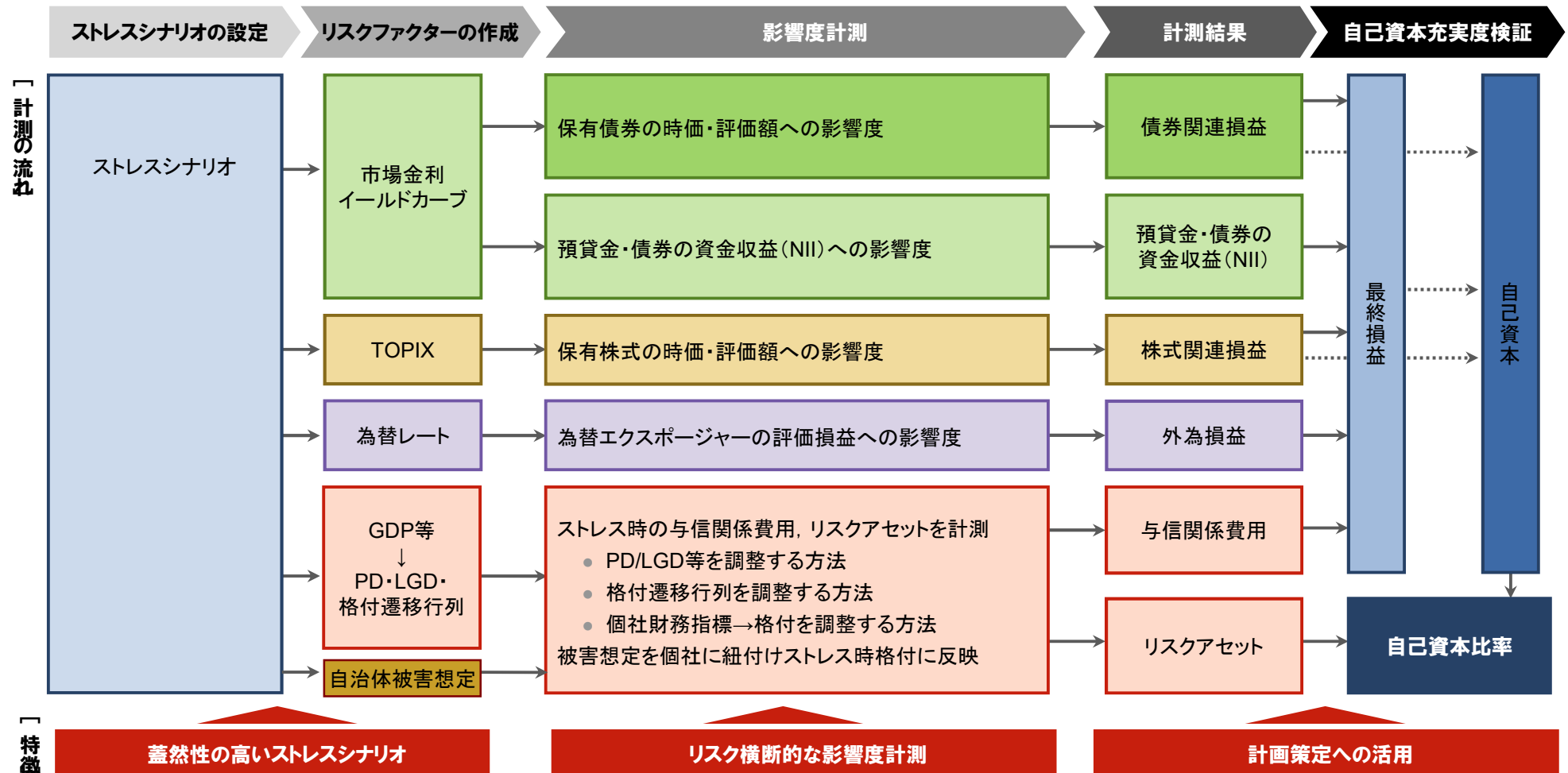
高度化の必要性

統合ストレステスト

<p>シナリオの蓋然性</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現実には起きないようなシナリオでは、説得力がない (例. イールドカーブの2%パラレルシフト) 	<p>蓋然性の高い ストレスシナリオ</p>	<p>例外的だがあり得るシナリオを複数設定 ～5年～20年に1回程度の発生確率をイメージ</p>
<p>リスクカテゴリー間の整合性</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ リスクカテゴリー毎に、別々にストレスシナリオを作ると、リスク間の整合性を欠く ■ 例えば、各リスクのワーストシナリオの同時発生は現実的には考えにくい 	<p>リスク横断的な 影響度評価</p>	<p>共通のシナリオに基づき、金利・株価・信用リスク等の各リスクの影響度を銀行横断的に評価 →相関を考慮した現実的な影響度評価</p>
<p>リスク指標VaRの説得力</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ストレス時のリスク指標VaR(99%タイルの経済価値の減少額)を示しても、経営としてそれに備える必要があるかどうかの説得力が乏しい 	<p>規制自己資本 の充実度検証</p>	<p>ストレス時の最終損益影響, 規制自己資本影響を計測 →銀行として許容可能な水準かどうかを検証</p>
<p>ストレス時の信用リスク量</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ストレス時の信用VaRでは説得力に欠く ■ リアリティのあるストレス時格付遷移行列、ストレス格付が見積もられていない 	<p>財務与信費用 の計測</p>	<p>ストレス時の格付遷移行列の変化を計測の上、 個社にストレス格付を付与して、財務与信費用を計測</p>

3. 統合ストレステスト手法の概要 (1) 手法全体像

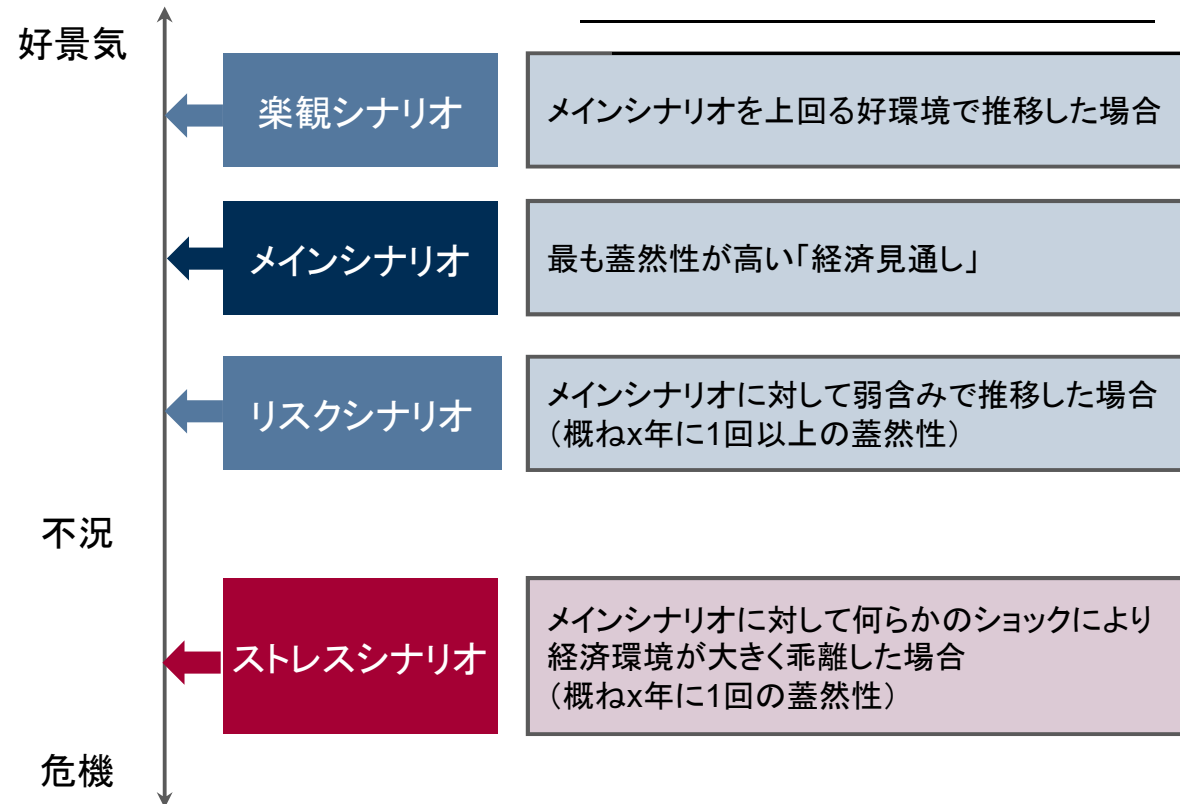
- ストレス時のマクロ経済シナリオを想定した上で、各リスクファクターを統合的に予測します。
- 各リスクファクターによる最終損益への影響を計測し、自己資本・同比率への影響を計測します。



3. 統合ストレステスト手法の概要 (2)シナリオ策定方法

- 経済見通しに基づくメインシナリオに基づき、上振れ・下振れを想定した楽観シナリオ・リスクシナリオを策定します。ストレスシナリオは、何らかの経済的ショックにより、リスクシナリオよりも蓋然性の低い、より悪化した経済環境を想定します。
- 行内で「ストレスシナリオ検討会」を開催するなど、各部での協議および経営の関与により決定することが重要です。

(想定経済状況のイメージ)



シナリオ検討・設定

ストレスシナリオ検討会(例)

- 統括部署: リスク統括所管部署
- サイクル: 半期に1回
- 参加部署: リスク統括部署、企画部署、市場運用部署、審査部署、その他関連部署 (含む各担当役員)
- 検討例
 - メインシナリオの設定
 - 候補ストレスシナリオからの絞込み
 - 候補ストレスシナリオのパラメータ調整
 - 独自シナリオの設定

3. 統合ストレステスト手法の概要 (3)シナリオ設定例

- MURCでは、当期の経済・社会環境からみて蓋然性の高く、銀行のリスク分析上有効性が高いと考えられるストレスシナリオを定期的に設定しています。
- 本コンサルティングでは、足元のMURCストレスシナリオを設定例としてご提供します。

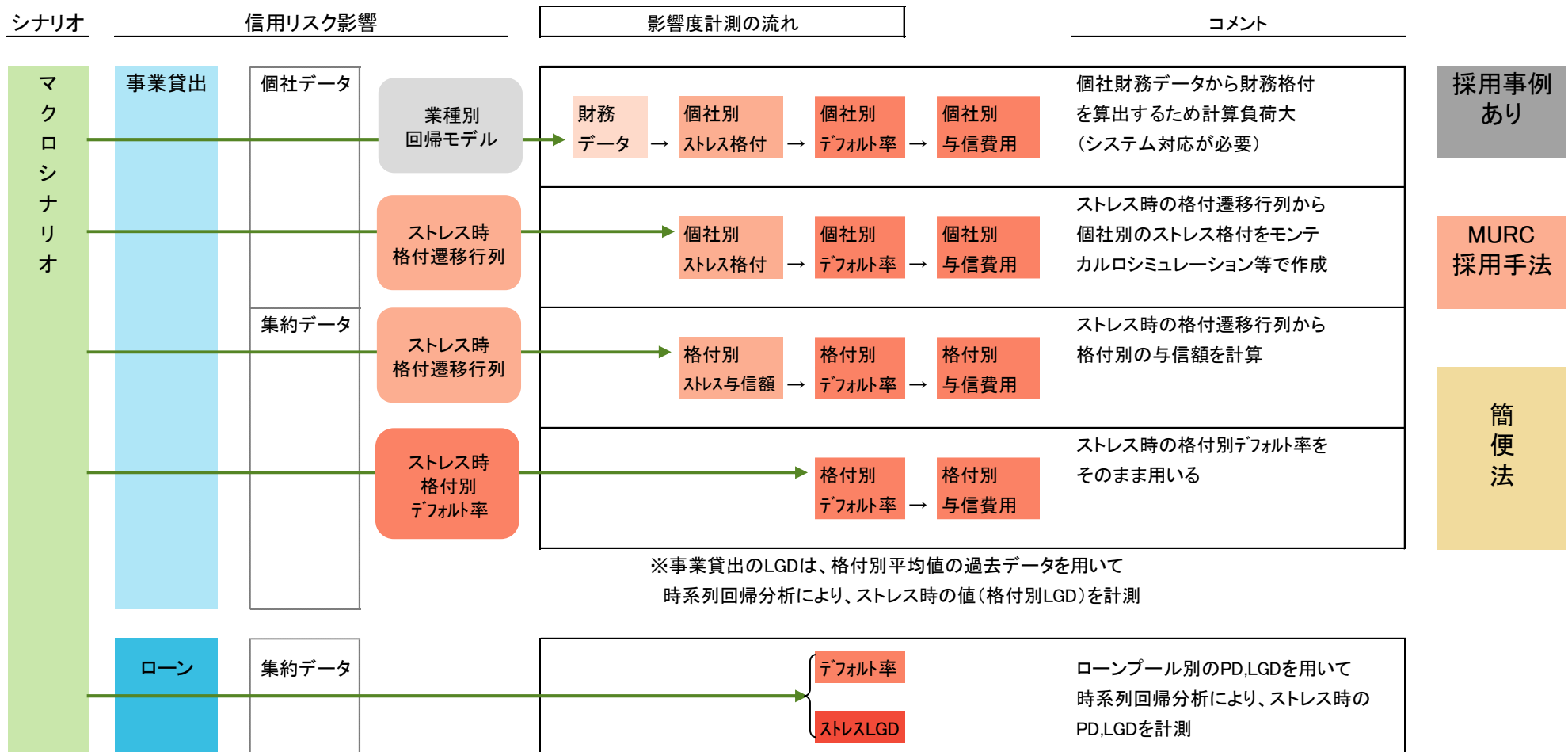
		GDP成長率(%)		失業率	株価 TOPIX (ポイント)	為替 円/ドル	JPY金利			USD金利		
		実質	名目				O/N (%)	3カ月 (%)	10年 (%)	O/N (%)	3カ月 (%)	10年 (%)
基準時点		市場指標: 2020年6月月中平均 GDP・失業率: 2019年度実績(米欧は2019年)										
メインシナリオ		2021/3末 2022/3末 2023/3末 景気は持ち直しに転じた後も新しい 生活様式下で緩やかな回復ペース										
ストレス シナリオ	1	米中貿易摩擦エスカレートによる 世界経済悪化 (①米中貿易摩擦)										2021/3末
												2022/3末
												2023/3末
	2	地政学リスクの高まりによる 世界経済悪化 (②地政学リスク)										2021/3末
												2022/3末
												2023/3末
	3	コロナ影響の拡大による 世界経済の悪化 (③コロナ影響拡大)										2021/3末
												2022/3末
												2023/3末
	4	マイナス金利長期化による 金融市場への悪影響拡大 (④マイナス金利)										2021/3末
												2022/3末
												2023/3末
	5	財政再建の遅れによる 日本国債価格の暴落 (⑤国債暴落)										2021/3末
												2022/3末
												2023/3末
	6	大規模自然災害の発生 (⑥大規模自然災害)										2021/3末
												2022/3末
												2023/3末

《シナリオ選定のポイント》

- 蓋然性が高い
～10年～20年に1回の発生確率
- 銀行リスク分析上有効性が高い
～銀行の収益、自己資本に与える影響が大きい
- マクロ経済を通して多くの銀行に影響を与える
～金融市場を通じたマクロ経済ストレスシナリオ

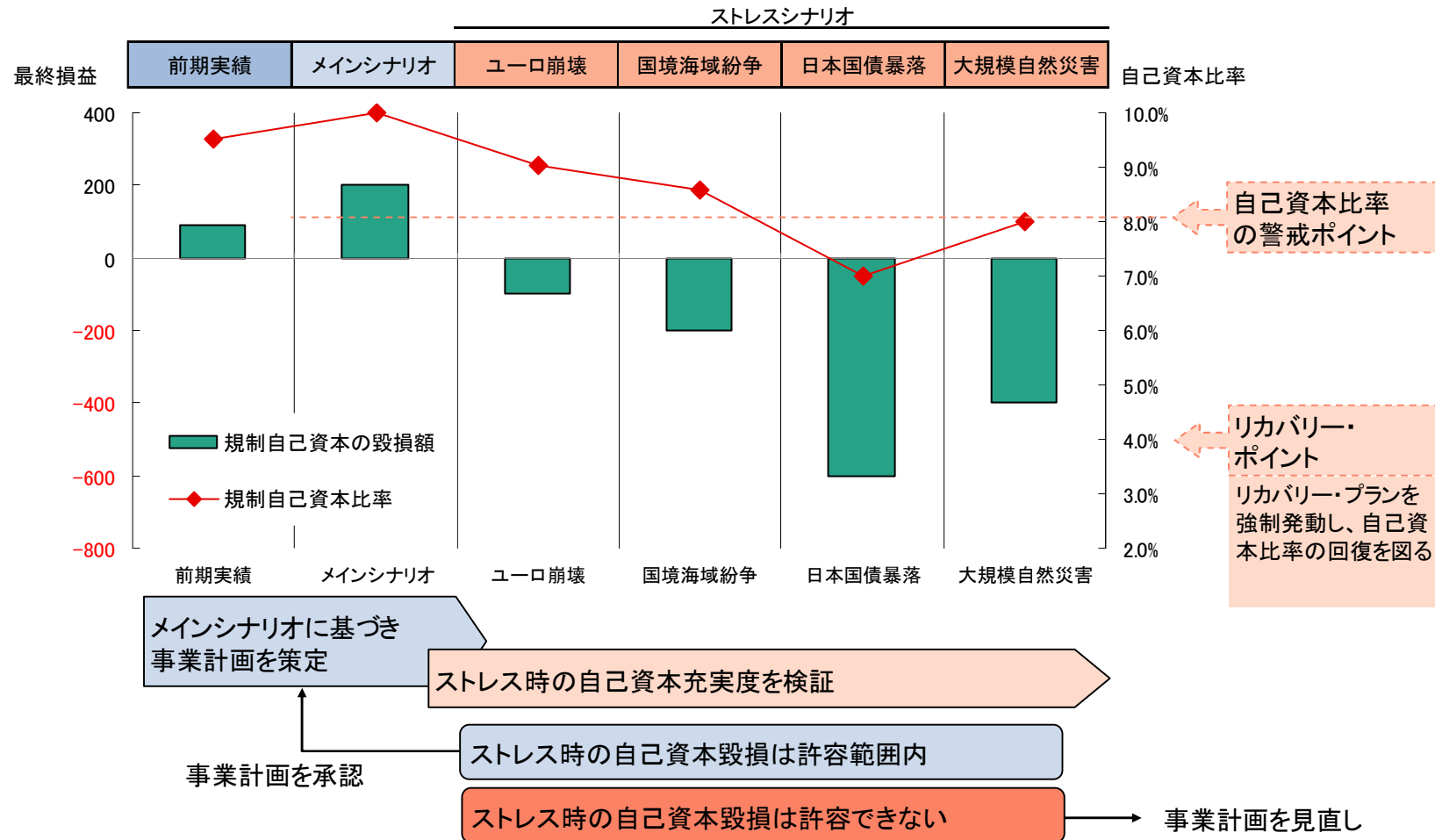
3. 統合ストレステスト手法の概要 (4) 影響度計測手法 (例) 信用リスク

- 信用リスクや市場リスク等のリスクカテゴリーごとに、影響度計測手法を検討します。
- 特に信用リスクは、複数の計測手法があるため、メリット・デメリット等を整理の上で、貴行グループにおいて望ましい計測手法を検討します。



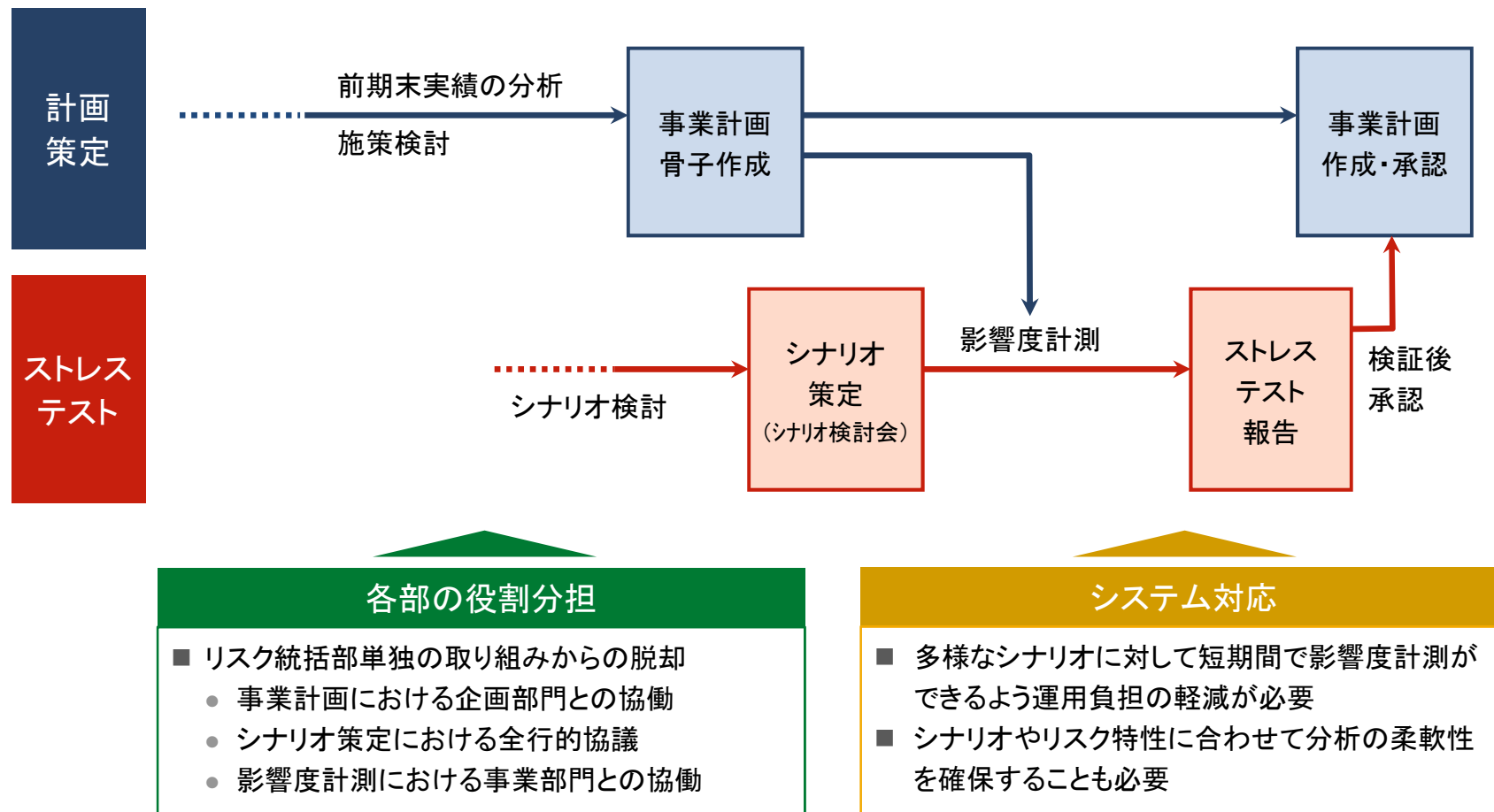
3. 統合ストレステスト手法の概要 (5) 結果の活用

- 影響度計測結果に基づき、あり得るストレス下でのダウンサイドリスクについても把握し、ストレス下であっても自己資本充実度が維持できることを確認します。



3. 統合ストレステスト手法の概要 (6) 実施体制の整備

- ストレステストをRAFにおける計画策定の一部として活用するためには、事後的な検証ではなく、計画策定とストレステストを並行して実施する体制作りが必要です。
- 実施スケジュールの見直しに加えて、各部の役割分担、計測負担軽減・計測の短期化をサポートするシステム対応等も検討する必要があります。



統合ストレステスト手法の高度化に関するMURCの主要コンサルティング・テーマ

1.

ストレステスト手法 現状診断

- 貴行のストレステスト手法について、先行他行の事例等と比較した課題を抽出し、高度化の方向性についてご提言します。
- ストレス影響度の計算方法だけでなく、シナリオの策定方法や結果の活用方法、各部の役割分担等を含めて、診断を行います。

2.

ストレステスト手法の 構築支援

- 貴行の実際のデータを受領し、MURCがストレステストを実施することにより、貴行に適した影響度計測手法や結果の報告活用方法等、貴行における具体的なストレステスト手法の構築・運営をご支援します。
- 必要に応じて、行内における影響度計測ツールの構築をご支援することも可能です。

3.

ストレスシナリオ 情報提供

- マクロ経済調査の専門機関であるMURCのノウハウに基づき、足元の経済・社会環境を反映した蓋然性の高いストレスシナリオ情報を策定し、ご提供します。
- 原則として、半期に1度、複数のシナリオ設定結果をレポート形式でご提供します。

ご連絡先

〒105-8501
東京都港区虎ノ門5-11-2
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
金融戦略室
Financial Institution Consulting Dept.

プリンシパル 五藤 靖人

Phone: 03-6733-1538

E-mail: gotoy@murc.jp



【免責事項】

- 本資料のご提示により、貴社と三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の間には何らかの契約関係が発生するものではなく、弊社が一切法的な義務・責任を負うものではありません
- 本資料は、弊社が信頼に足るとされる情報に基づいて作成しておりますが、弊社はその正確性、完全性及び信頼性を保証するものではありません
- また、本資料に関連して生じた一切の損害について、弊社は責任を負いません
- 本資料は弊社の著作物であり、著作権法により保護されております。弊社の事前の承諾なく本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます
- 本件に関してご質問等がございましたら、担当コンサルタントまでお問合せください

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

www.murc.jp/